

日本語起源の英語

—COD第10版と第11版について—

轟 義 昭

はじめに

筆者は嘗て『南日本新聞』(1995年7月30日付け)に掲載された *Concise Oxford English Dictionary* (通称 *COD*) 第9版の記事に着目し、「コンサイス」に収録された92語の日本語起源の英語に関して調査したことがある。¹ 調査の内容は92語を *COD* 第9版からピックアップし、それらの単語が第何版で新語として採用されたのか、また単語の定義は版が改訂されても同じなのかどうかの検証にあった。更に、調査の範囲を広げ、日本で出版された各種英和辞典ではどのように取り扱われているかも検証した。² これらの論文を発表した後、Evans(1997)の用例集³と加藤・熊倉(1999)の語源解説辞典⁴が出版され、「日本語起源の英語」への筆者の関心は一層高まった。折しも、*COD*が改訂され第10版が出版されたので、「*SOD*(1993)に掲載された日本語起源の英語は今後出版される *COD* 第10版の予備軍」とした轟(1997)の見解を立証しようと調査に乗り出した。調査結果の発表をもたついていると、2004年に第11版が出版された。今回、*COD* 第10版と第11版における調査結果を同時に報告したい。

1. 辞書編纂の責任者(編集長)

第10版と第11版の編集長は以下のとおりである。

第10版(1999) Edited by Judy Pearsall

第11版(2004) Edited by Catherine Soanes & Angus Stevenson

ここで注目しておきたい点は2つある。一つは編集長には新聞などから蓄積されたデータベースから単語を引き出し、「定着したと認められた単語だけを選択」する権限があったという点である。⁵ もう一つは *COD* の改訂版(第10版)の1年前に *The New Oxford Dictionary of English* (通称 *ODE*, 1998) が出版されているが、その編集長が Judy Pearsall であったこと、同様に *COD* の改訂版(第11版)の1年前に *ODE* 第2版(2003) が出版されているが、その編集長が Catherine Soanes & Angus Stevenson であったという事実である。*COD* (第10版)の序文のなかで第10版の辞典は *ODE* にかなり依存していると述べられているので、*COD* に選択された日本語起源の英語は *ODE* から厳選されたものであると推測できよう。

2.1. 第10版で新語として認定された日本語起源の英語

第10版を丹念に調査すると、第9版に掲載された92語のなかで *Nipponese* (日本+ese) だけが削除されているようであるが、新たに65語が認定されている(表1参照:どのような単語であるか想像できるように対応する日本語を付している)。

表 1

Akita	秋田	keiretsu	系列	soba	蕎麦
anime	アニメ	kyu	級	sokaiya	総会屋
arame	荒布	manga	漫画	sumi-e	墨絵
Bon	盆	matsuri	祭	tabi	足袋
daikon	大根	Meiji	明治	tachi	太刀
fugu	河豚	mirin	味醂	tamagotchi	たまごっち
gi	着	mizuna	水菜	tamari	溜り
gobo	牛蒡	Nichiren	日蓮	teriyaki	照焼
Hashimoto's disease	橋本病	nori	海苔	tokonoma	床の間
hibachi	火鉢	nunchaku	ヌンチャク	tsuba	鍔
hinoki	檜	O-bon	お盆	tsubo	坪・壺
Imari	伊万里	ramen	ラーメン	tsutsugamushi disease	ツツガムシ病
inro	印籠	reiki	霊気	udon	うどん
ippon	一本	ryu	流	wakame	ワカメ
issei	一世	sansei	三世	wakizashi	脇差し
juku	塾	sensei	先生	wasabi	山葵
karateka	空手家	Sinkansen	新幹線	yakuza	ヤクザ
karoshi	過労死	shochu	焼酎	yokozuna	横綱
kata	型	shoji	障子	yukata	浴衣
katana	刀	shoyu	醤油	zaibatsu	財閥
katsura	桂・鬘	shuriken	手裏剣	zazen	座禅
Kawasaki disease	川崎病	skosh	少し		

2.2. 第10版の新語の特徴

表 1 を精査すると、認定された新語の範疇には特徴が認められる。

(1) 格闘技 (martial arts) に関連した語が多い。

gi, ippon, karateka, kata, kyu, nunchaku, ryu, sensei, shuriken

gi と ryu に関して言えば、judo gi (柔道着) や Ogasawara ryu (小笠原流) のように連語の形成がなければ、あるいは Evans (1997) が用例として挙げているように、⁶ 文脈の前後から判断するか、括弧書きによる説明がなければ、この一語を聞いただけでは日本人にも理解されない単語である。

(2) 食品・調味料に関連した語が多い。

arame, daikon, fugu, gobo, mirin, mizuna, nori, ramen, shoyu, soba, tamari, teriyaki, udon, wakame, wasabi

調味料に関しては、第 9 版 (1995) で miso (味噌) が認定され、第 10 版 (1999) で mirin

と shoyu が追加された。取り分け、「醤油」は COD 初版（1911）から soy という語で認定されていたが、今回、日本語の発音どおりの単語が認定されたことになる。興味深い単語は gobo である。『ジーニアス英和辞典』において「牛蒡」burdock は「欧米では雑草扱いで食用にしない」と解説されている。この解説に信頼を置けば、欧米人は牛蒡に関心など示していないはずである。では、何故 gobo が第10版で認定されるほど英語圏に定着したのであろうか。

(3) 「侍」samurai に関連した語が認定されている。

katana, tachi, tsuba, wakizashi

2.3. 第10版の新語と SOD(1993) 及び ODE(1998) との関係

轟（1997）で列挙した SOD(1993) に見られる日本語起源の英語⁷と照合すると、表1のなかでは46語が COD 第10版（1999）に採用されている。

Akita, fugu, Hashimoto's disease, hibachi, hinoki, Imari, inro, ippon, kata, katana, katsura, kyu, matsuri, Meiji, Nichiren, nori, nunchaku, ramen, ryu, sansei, sensei, Sinkansen, shochu, shoji, shoyu, shuriken, skosh, soba, sokaiya, tabi, tachi, tamari, teriyaki, tokonoma, tsuba, tsubo, tsutsugamushi disease, udon, wakame, wakizashi, wasabi, yakuza, yokozuna, yukata, zaibatsu, zazen

また、karateka は karate の派生語として、sumi-e は sumi の派生語として SOD で見出せる。これら48語については、Evans(1997) も *A Dictionary of Japanese Loanwords* のなかにもすべて含めているので、Pearsall 編集長が4年間で英語圏にかなり定着したと判断し、ODE(1998) に取り上げたうえで、英国最大の発行部数を誇る「コンサイス」レベルの辞典に採用したとしても何ら問題はない。

残り17語についてはどうだろうか。ODE(1998) と照合すると、すべての単語がこの辞典に含まれていることが分かる。

anime, arame, Bon, daikon, gi, gobo, issei, juku, karoshi, Kawasaki disease, keiretsu, manga, mirin, mizuna, O-bon, reiki, tamagotchi

しかしながら、これらのなかで、anime, arame, mizuna, tamagotchi の4語は Evans(1997) には無いので、1997年から1998年の間に英語圏に定着した単語ということになる。

2.4. 第10版で復活した日本語起源の英語

轟（1997）の調査によると、日本語起源の英語として認定された単語のなかには途中で消滅した語も見られたが、それらの語のなかで4語が第10版で復活している（daimyo, kami, sen, ukiyo-e : 表2参照）。⁸ daimyo は初版（1911）から新語として採用され、第7版（1982）まで継承されるが、第8版（1990）で消滅すると第9版（1995）でも採用されていない。kami と sen は初版から新語として採用され、第5版（1964）まで継承されるが、第6版（1976）で消滅すると第9版まで採用されていない。kami に関しては、当初「神」のほかに「守」の意味も含まれていたが、第10版で復活したのは a divine being in the Shinto religion と定義さ

れた「神」だけである。ukiyo-eは第6版で新語として採用されるが、第7版までであった。ukiyo-eに関して、筆者は第6版と第7版の編集長が同一（J.B. Sykes）なので、「彼に認められた語にすぎない」⁹と考えていたが、今回この考えを改めなくてはなるまい。

版が改訂される際に、編集長の方針によって単語が消滅したり復活したりする場合もあるので、我々は単語の動向には最新の注意を払う必要があるだろう。

表2

	10th	9th	8th	7th	6th	5th	4th	3rd	2nd	1st
daimyo (大名)	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
kami (神)	△	—	—	—	—	○	○	○	○	○
sen (銭)	○	—	—	—	—	○	○	○	○	○
ukiyo-e (浮世絵)	○	—	—	○	○	—	—	—	—	—

3.1. 第11版で新語として認定された日本語起源の英語

第11版を丹念に調査すると、新たに18語が認定されている（表3参照：どのような単語であるか想像できるように対応する日本語を付している）。

表3

bento	弁当	kyudo	弓道	seitan	セイタン
budo	武道	mawashi	回し	shabu-shabu	しゃぶしゃぶ
dohyo	土俵	otaku	オタク	shiso	紫蘇
enoki	榎	reishi	レイシ	surimi	すり身
hibakusha	被爆者	-san	～さん	teppanyaki	鉄板焼き
kumite	組み手	sayonara	さよなら	umami	旨み

3.2. 第11版の新語の特徴

格闘技に関連した単語（budo, kumite, kyudo）のほかに、食べ物・料理関係の単語（bento, shabu-shabu, surimi, teppanyaki）が目立つ。キノコ関係は第9版でshiitake（椎茸）が初めて認定されたが、今回、enokiとreishiが認定されたことから注目されつつあるようだ。相撲用語は第6版でsumo（相撲）が認定されてから、第9版でbasho（場所）、第10版でyokozuna（横綱）が認定された。今回、dohyoとmawashiが認定されているので、改訂されるごとに増える傾向にあるだろう。

第8版で認定されたrotenone（ロテノン）¹⁰と第9版で認定されたshubunkin（朱文金）¹¹は『広辞苑』（第3版）を参照しても日本名を特定できないほど特殊な専門用語であったが、第11版にも『広辞苑』（第5版）を参照しても理解できない専門用語が認定されている。seitanは、第11版の定義によると、「小麦粉グルテンから作られた植物性タンパク質の一種で、肉の代用品

として用いられる」とある。日本語の *shokubutsusei tanpaku* から由来するとあるが、『広辞苑』を参照しても分からない *seitan* という単語がどうして海外で定着したのだろうか。

3.3. 第11版の新語とSOD(1993) 及びODE(2003) との関係

2.3のように、SOD(1993)に見られる日本語起源の英語¹²と照合すると、表3のなかでは5語がCOD第11版(2004)に採用されている。

hibakusha, -san, sayonara, shabu-shabu, teppanyaki

これら5語はEvans(1997)のなかにも含まれ、*-san*以外はODE(1998)にも見られる。2003年、Catherine SoanesとAngus Stevenson両編集長はこれらの単語をODE(2003)で取り上げ、英語圏での定着度合いから、2004年に「コンサイス」レベルの辞典に認定したことになる。

残り13語についてはどうだろうか。表4に示されるように、*dohyo, budo, kyudo, mawashi*の4語は、Evans(1997)には取り上げられているが、ODE(2003)にはない。また、*seitan*と*shiso*はEvans(1997)にもODE(2003)にもない。この事実から、2003年までに蓄積されたデータベースからではこれら6語が英語圏に定着したかどうかを両編集長は判断できていなかった。しかしながら、COD第11版の編集段階までに蓄積された使用例から、それらの単語は「定着した」と判断して、「コンサイス」レベルの辞典に認定したと推論できる。これは第10版には見られなかった特色である。

表4

Evans (1997) に掲載	ODE (1998) に掲載	ODE (2003) に掲載	左記以外
bento, dohyo, budo, enoki, kumite, kyudo, mawashi, surimi	kumite, otaku	bento, enoki, kumite, otaku, reishi, surimi, umami	seitan, shiso
hibakusha, -san, sayonara, shabu-shabu, teppanyaki	hibakusha, sayonara, shabu-shabu, teppanyaki	hibakusya, -san, sayonara, shabu-shabu, teppanyaki	

3.4. 第11版で復活した日本語起源の英語

嘗て日本語起源の英語として認定されていた単語のなかで、第11版で復活したものが1つあった(Nipponese:表5を参照)。Nipponeseは第8版(1990)から新語として採用され、第9版では継承されるが、第10版で消滅している。筆者が2.3で示したように、ODE(1998)で採用した単語のなかから「コンサイス」レベルの辞典で認定するのがPearsall編集長の方針であるとすれば、そこに含まれていないNipponeseが第10版にないのは納得がいく。だが、Catherine SoanesとAngus Stevenson両編集長はこれをPearsall編集長の作業ミスと判断したようで、ODE(2003)でNipponの派生語として復活させたうえで、第11版で復活させている。

表5

	11th	10th	9th	8th	7th	6th	5th	4th	3rd	2nd	1st
Nipponese (日本+ese)	○	—	○	○	—	—	—	—	—	—	—

4. 第11版に基づく新語の分布状況

2.1で第10版では第9版に掲載された92語のなかで Nipponese (日本+ese) だけが削除されたが、新たに65語が認定されたことを、2.4で第10版では嘗て日本語起源の英語として認定されていた単語のなかで4語が復活したことを指摘した。3.1で第11版では新たに18語が認定されたことを、3.4で第10版のなかで削除された Nipponese が復活したことを指摘した。この結果、第11版には日本語起源の英語が179語掲載されていることが判明した。この179語を対象にして COD 初版から第11版における新語の収録語数状況を表したものが図 I である。

図 I

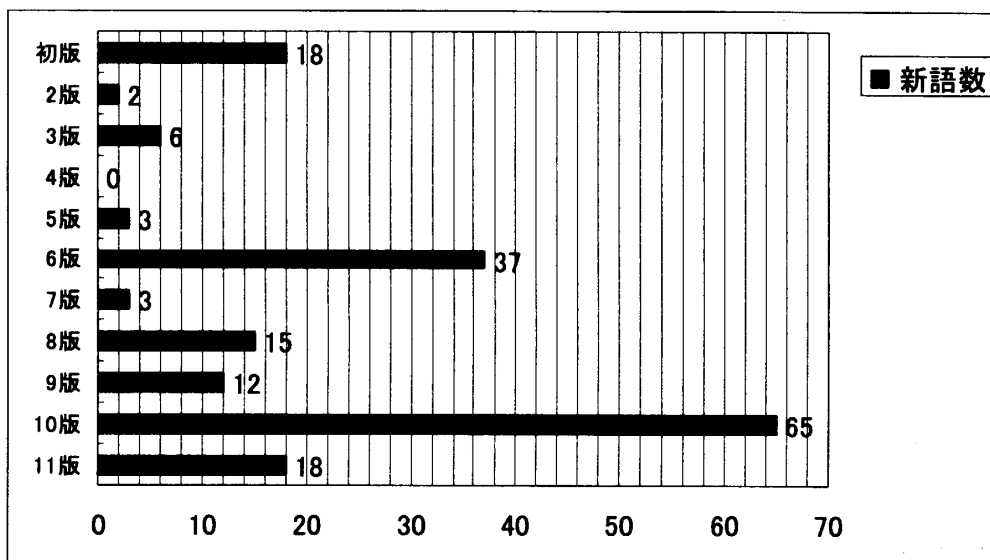


図 I は第11版に基づいて作成しているもので、轟 (1997) で示したものと若干異なる。これは復活した日本語起源の英語の影響によるものである。第9版に基づく新語の分布状況では初版は15語であったが、第10版で daimyo, kami, sen の3語が復活し、第11版でも継承されたので18語となり、同様に第6版は36語であったが、第10版で ukiyo-e が復活し、第11版でも継承されたので37語となっている。

図 I を見ると、第10版の新語数は際立って多いが、第11版も第6版に続いて3番目に多い。第8版 (1990) から改訂されるたびに10数語の日本語起源の英語が認定されているので、CODでの収録語数が今後益々増える傾向にあることは間違いない。

5. 第10版と第11版における日本語起源の英語の定義

初版から第9版を調査した轟 (1997) において、(1) 定義は踏襲されるだけでなく、細部

において若干変更され、編者の苦心の跡が見られた、(2) 定義に対する編者の心遣いが感じられるが、日本的感覚から言えば、理解しがたいものがあった、(3) 現代日本人の「地平」から判断した場合、納得しがたい定義があったことを指摘した。ここでは、この結果を踏まえながら、第10版と第11版の定義に用いられた語句を検討したい。

5.1. 第10版において定義の細部変更に見られる編者の苦心

まず、第9版に基づく調査で取り上げた raku (楽) と shiatsu (指圧) について考察しよう。

raku

第8版： a kind of Japanese earthenware, usu. lead-glazed.

第9版： a kind of Japanese lead-glazed earthenware, primarily for use in the tea ceremony.

第10版： a kind of lead-glazed Japanese earthenware, used especially for the tea ceremony.

shiatsu

第8版： a kind of the therapy of Japanese origin, in which pressure is applied with the fingers to certain points of the body.

第9版： a kind of the therapy of Japanese origin, in which pressure is applied with the thumbs, palms, etc. to certain points of the body.

第10版： a Japanese therapy based on the same principles as acupuncture, in which pressure is applied with the hands to points on the body.

楽焼に由来する raku においては、第9版で「主に茶道で用いられる」という説明が付加され、茶道と陶器が結びつく日本文化を英語圏住民に明確に伝達するような定義に改められた。第10版でもその精神は受け継がれている。一方、shiatsu においては、第9版で「指」から「親指と手のひらなど」を用いるという説明に変更され、「指圧」のイメージを明確に伝達するような定義に改められた。しかし、第10版では「針治療と同じ原理」に基づくという説明が付加されるが、身体の壺を押す際に「手」を用いると直されている。定義内容を比較すると、「親指と手のひら」という手の一部から「手」という全体に改められただけかもしれないが、Pearsall 編集長の定義の改編は「指圧」という行為を漠然とさせたものになったのではないだろうか。

次に、単語の意味を一段と分かりやすくするために、編集長によって取られた工夫を紹介しよう (表6参照)。

- (1) 第9版の定義に一語だけ補足することで一段と明確にされたものがある (Noh, sake)。Noh においては masked という語を加えて、日本の伝統的な「能」が「能面を付けて」演じられる歌舞劇であることを、sake においては fermented という語を加えて、「酒」が「発酵した」米から作られることを伝えている。
- (2) 第9版の定義に説明文を補足することで一段と明確にされたものがある (katakana, shakuhachi)。katakana においては「特に外来語のために用いられる」という説明を加えて、現在の使用方法にまで言及されている。shakuhachi においては「演奏される時、垂直に持た

- れる」という説明を加えて、西洋のフルーツとは異なる持ち方であることが強調されている。
- (3) 第9版の定義に用いられた語句を改めることで一段と明確にされたものがある (obi, sika)。obiにおいては前置詞 with を round the waist of という語句にすることによって、帯は着物を着た際に「腰のあたり」に付けられる飾り帯であることを、sikaにおいては分かり難い学術用語 *Cervus nippon* を避けて、with a grayish winter coat that turns yellowish-brown with white spots in summer という語句にすることによって、「夏に黄褐色の地に白い斑点があるが、冬には灰色毛に覆われる」ニホンジカの特性を伝えている。
- (4) 項目1, 項目2に分かれた第9版の定義を一つにまとめる形で改編することによって一段と明確にされたものがある (haiku, kimono)。haikuにおいては「五・七・五」の17音節からなり、同時に「3行」と定義して、国際化した英語による俳句も意識させている。¹³ kimonoにおいては「元来日本において正装用として着用」されることを強調し、「長い衣服で、幅広い袖を持つ」という説明を加えて、着物のイメージをわかりやすくしている。

表6

	第9版の定義	第10版の定義
haiku	1 a Japanese three-part poem of usu. 17syllables. 2 an English imitation of this	a Japanese poem of seventeen syllables, <u>in three lines of five, seven, and five</u>
katakana	an angular form of Japanese kana	an angular form of Japanese kana, <u>used especially for words of foreign origin</u>
kimono	1 a loose Japanese robe worn with a sash. 2 a European dressing gown modeled on this	a <u>long</u> , loose robe <u>having wide sleeves</u> and tied with a sash, <u>originally worn as a formal garment in Japan</u>
Noh	traditional Japanese drama with dance and song, evolved from Shinto rites	traditional Japanese <u>masked</u> drama with dance and song, evolved from Shinto rites
obi	a broad sash worn with a Japanese kimono	a broad sash worn <u>round the waist of a</u> Japanese kimono
sake	a Japanese alcoholic drink made from rice	a Japanese alcoholic drink made from <u>fermented</u> rice
shakuhachi	a Japanese bamboo flute	a Japanese bamboo flute, <u>held vertically when played</u>
sika	a forest-dwelling deer, <i>Cervus nippon</i> , native to Japan and SE Asia and naturalized in Britain and elsewhere	a forest-dwelling deer <u>with a grayish winter coat that turns yellowish-brown with white spots in summer</u> , native to Japan and SE Asia and naturalized in Britain and elsewhere

5.2. 第11版における定義の細部変更

第11版の Catherine Soanes と Angus Stevenson 両編集長は、新語（18語）と復活させた単語（1語）を除く160語のうち153語において第10版の定義をそのまま援用している。7語において定義内容を微妙に改編しているが、第10版の Pearsall 編集長が行ったような苦心の跡は見られない（表7参照）。それどころか、改編には問題がある。

改編された7つの定義内容には3つの特徴がある。

- (1) 語句の省略によって定義が短くされている。keiretsu では by cross-shareholdings (株式の持ちあいによって), netsuke では of wood or ivory (木製あるいは象牙製の), nunchaku では hardwood (硬材) が省略されているが、「株式の持ちあいによって」という語句は複合企業を形成する手段を表し、「木製あるいは象牙製の」という語句は根付けの装飾品の材料を示し、「硬材」という語はヌンチャクに用いられる棒の材質を表すので、定義内容から考慮すると、それらは重要な語句のはずである。
- (2) 定義の説明文が簡素化されている。matsuri では形容詞と修飾語句を削って説明文の語数が減らされ、sumo では相撲の勝敗に関する説明文「対戦相手を土俵の外に出すか、対戦相手の足の裏以外の身体を土俵に付けることで力士は勝負に勝つ」が省かれている。後者の説明文は長いですが、長いからと言ってこの説明文が省かれた第11版の定義では「相撲」がどのようなスポーツなのか分からない。
- (3) ある語句が別の語句で言い換えられている。adzuki では this bean を adzuki beans と、tofu では curd (凝乳の食品) を a soft white substance (柔らかくて白いもの) と改められている。第11版では bean curd が another term for tofu と定義されていることを考慮すると、「柔らかくて白いもの」とわざわざ改める必要はない。

表7

	第10版の定義	第11版の定義
adzuki	1 a small, round dark-red edible bean. 2 the bushy Asian plant which produces <u>this bean</u>	1 a small, round dark-red edible bean. 2 the bushy Asian plant which produces <u>adzuki beans</u>
keiretsu	(in Japan) a conglomeration of businesses linked together <u>by cross-shareholdings</u> to form a robust corporate structure	(in Japan) a conglomeration of businesses linked together to form a robust corporate structure
matsuri	a solemn festival celebrated periodically at Shinto shrines in Japan	a Japanese Shinto festival
netsuke	a carved button-like Japanese ornament <u>of wood or ivory</u> , formerly worn tucked into the sash of a kimono	a carved button-like ornament formerly worn in Japan to suspend articles from the sash of a kimono

nunchaku	a Japanese martial arts weapon consisting of two <u>hardwood</u> sticks joined together by a chain, rope, or thong	a Japanese martial arts weapon consisting of two sticks joined together by a chain, rope, or thong
sumo	a Japanese form of heavyweight wrestling, <u>in which a wrestler wins a bout by forcing his opponent outside a marked circle or by making him touch the ground with any part of his body except the soles of his feet</u>	a Japanese form of heavyweight wrestling
tofu	<u>curd</u> made from mashed soya beans, used chiefly in Asian and vegetarian cookery	<u>a soft white substance</u> made from mashed soya beans, used in Asian and vegetarian cookery

5.3. 日本人的感觉から理解しがたい定義

轟 (1997) では第6版 (1976) で新語として認定された *sukiyaki* の定義内容が英語圏住民に日本の「焼肉」のイメージをきちんと伝達しているかどうかを検証した。『広辞苑』を参照すると、焼肉は「牛・鶏肉などに葱・焼豆腐などを添えて鉄鍋で煮焼する鍋料理」なので、日本人的感觉から言えば、vegetables(野菜) と sauce(付け合わせ野菜) と一緒に「油を使って加熱調理される」(fried) よりも「とろ火でとろとろ煮られる」(simmered) とした方が理解しやすいと思われる。

では、第10版と第11版の定義はどうだろうか (表8参照)。

表8

第6版	a Japanese dish of sliced meat <u>fried</u> with vegetables and sauce
第7版	a Japanese dish of sliced meat <u>simmered</u> with vegetables and sauce
第8版	a Japanese dish of sliced meat <u>simmered</u> with vegetables and sauce
第9版	a Japanese dish of sliced meat <u>fried rapidly</u> with vegetables and sauce
第10版 第11版	a Japanese dish of sliced meat, especially beef, <u>fried rapidly</u> with vegetables and sauce

especially beef(特に牛肉)という語句を追加して、薄切りにされた肉の種類が強調されているが、第9版と同様に *fried rapidly* という語句が使用されている。筆者が *fried* という語の使用にこだわる理由は、*tempura* という単語にもその語が使用されているからである。

tempura : a Japanese dish of fish, shellfish, or vegetables, fried in batter (第9, 10, 11版)

「テンプラ」は魚介類や野菜などに小麦粉を水でといたころもを着けて油で揚げた日本料理である。日本では「鋤焼」と「テンプラ」の料理方法は違うので、tempuraの定義に使用されたfriedがsukiyakiにも使用されるとすれば、首を傾げる日本人は筆者一人ではあるまい。それともsukiyakiは日本料理であるが、海外では日本の作り方と違うのだろうか。

5.4. 現代日本人の「地平」から納得し難かった定義

現代日本人の「地平」から判断した場合、geisha(芸者)の定義内容は納得し難いことを轟(1997)で論じた。geishaは初版から第5版(1964)まで「踊り子」という簡単な説明であったが、第6版(1976)で「歌や躍りで客を楽しませる女」「娼婦」という定義に改編され、第9版(1995)まで継承された。確かに近世後期(江戸時代)において芸者には女郎のイメージと売色の意味が含まれ、日本人であれば、古語と現代語の意味に一線を画することはできる。だが、CODの定義では芸者=娼婦が現代にまで根を下ろしているとの誤解を英語圏住民に与えかねないので、「辞典が改訂される際に a Japanese prostitute in the last part of Edo period のように改めるか、さもなくば、削除してもらいたい」¹⁴と指摘した。

では、第10版と第11版の定義はどうだろうか(表9参照)。

表9

第1～5版	Japanese dancing-girl
第6版	Japanese hostess entertaining men with dance and song; Japanese prostitute
第7版	trained Japanese hostess entertaining men with dance and song; Japanese prostitute
第8～9版	1 a Japanese hostess trained in entertaining men with dance and song. 2 a Japanese prostitute
第10～11版	a Japanese hostess trained to entertain men with <u>conversation</u> , dance, and song

第10版では conversation という語を追加して、歌や躍りのほかに「会話」で客を楽しませる女と改められる一方で、問題視された「娼婦」という定義は削除されている。第11版も同様である。継承され続けた悪例が改訂された第10版で解消されたことは好ましいことである。

5.5. 定義内容の一部削除

第10版の定義において、第9版の定義内容が継承されていない単語が3つあった(表10参照)。gaijin(外人)は第9版で日本語起源の英語として認定され、そのなかで形容詞としての用法が認められていたが、第10版にはない。ronin(浪人)は第6版(1976)で日本語起源の英語として認定された時、「(封建時代の日本において)主家を去り封禄を失った武士」という定義であった。第7版(1982)と第8版(1990)でもその定義だけであったが、第9版(1995)で「大学入試を再受験する日本の学生」という定義が2項として追加された。しかしながら、

第10版 (1999) では削除されている。samurai (侍) は第9版において「日本の陸軍将校」と「日本の封建社会において士の身分に属する者」の2つの定義内容から成っていたが、第10版では前者の項目が削除されている。

3つの単語に関しては、第10版の定義が第11版でも継承されている。

表10

	第9版の定義	第10版と第11版の定義
gaijin	n. (<i>pl. same</i>) (in Japan) a foreigner; an alien. <i>adj. foreign, alien</i>	n. (<i>pl. same</i>) (in Japan) a foreigner
ronin	1 (in feudal Japan) a lordless wandering samurai; an outlaw. <u>2 a Japanese student retaking a university examination</u>	(in feudal Japan) a wandering samurai who had no lord or master
samurai	<u>1 a Japanese army officer.</u> 2 a member of a military caste in feudal Japan	a member of a powerful military caste in feudal Japan

まとめ

今回、COD第10版と第11版において日本語起源の英語の継続調査を試み、その結果を報告した。この調査報告の価値は第10版において65語、第11版において18語の単語を確認できたことにある。Pearsall編集長はODE (1998) で採用した単語のなかから65語を厳選して第10版で認定しているが、Catherine SoanesとAngus Stevenson両編集長はODE (2003) に含まれていない6つの単語 (budo, dohyo, kyudo, mawashi, seitan, shiso) も第11版で認定している。第10版では見られなかった特色が第11版に見られる点は興味深い。

定義内容に関して言うと、第10版のPearsall編集長は第9版の一部を改編し、一段と明確にしようとする工夫を施している。他方、第11版のCatherine SoanesとAngus Stevenson両編集長は160語のうち153語において第10版の定義をそのまま援用し、7語だけ定義内容を微妙に改編しているが、その改編には問題があると言わざるを得ない。

sukiyakiの定義に関して言うと、語句の追加が認められるが、基本的には第9版の定義が第10版でも援用されているので、日本人的感觉から言えば、疑問が生じたままである。他方、geishaの定義に関して言うと、第6版から継承され続けた悪例は、現代日本人の「地平」から言えば、納得し難かったが、それが第10版で削除された点は評価に値する。しかしながら、第9版で「大学入試を再受験する日本の学生」がroninの定義に追加されたのに、第10版で継承されなかった点は残念である。

注

1. 拙稿「日本語起源の英語－CODの場合－」, 鹿児島県立短期大学『人文』第21号 (1997), pp. 29－38.
2. 拙稿「日本語起源の英語－各英和辞典の場合－」, 鹿児島県立短期大学『紀要』第48号 (1997), pp. 49－58.
3. Toshie M. Evans, *A Dictionary of Japanese Loanwords*, Greenwood Press, 1997.
4. 加藤秀俊・熊倉功夫編『外国語になった日本語の辞典』, 岩波書店, 1999年.
5. 1995年7月30日付けの『南日本新聞』を参照.
6. Toshie M. Evans, *A Dictionary of Japanese Loanwords* (Greenwood Press, 1997), p. 41: “In America, the strict dress code of the traditional school has been relaxed to reflect the plurality of tastes and interpretations of martial arts. It is possible to purchase *gi* in all colors－white, black, red, blue, even Ameican flag patterns－and styles－full sleeves, ‘sports top,’ and so on.” and p. 146: “The final certificate was the *jodan*, upper rank, which allowed the student to enter into the *okuden*, the secret tradition of the *ryu* (school or system of martial arts).”
7. 「日本語起源の英語－CODの場合－」, pp. 37－38.
8. 同上, p. 33. eta, Genro, geta, gobang, habutai, jinricksha, kago, kiri, Nippon の9語は消滅してまだ復活していない。
9. 同上, p. 33.
10. ロテノン $C_{23}H_{22}O_6$ は「豆科植物のデリスなどのような熱帯産有毒植物の根から得られ, 殺虫剤として用いられる」物質である。
11. 朱文金は「黒い斑点があり, 長い尾鰭と胸鰭を持つ観賞用金魚」である。
12. 「日本語起源の英語－CODの場合－」, pp. 37－38.
13. 英語の俳句については, 例えば, Thomas Heffernan, *Christmas Gifts in South Japan and Other Haiku Essays* (St. Andrews Press, 2003)を参照。
14. 「日本語起源の英語－CODの場合－」, p. 35.

参考文献

- 加藤秀俊・熊倉功夫編『外国語になった日本語の辞典』, 岩波書店, 1999年
轟義昭「日本語起源の英語－CODの場合－」, 鹿児島県立短期大学『人文』第21号 (1997)
轟義昭「日本語起源の英語－各英和辞典の場合－」, 鹿児島県立短期大学『紀要』第48号 (1997)
Toshie M. Evans, *A Dictionary of Japanese Loanwords*, Greenwood Press, 1997
『角川 古語大辞典』(第二巻), 中村幸彦・岡見正雄・阪倉篤義編著, 角川書店, 1984年
『広辞苑』(第3版), 新村出編著, 岩波書店, 1983年

『広辞苑』(第5版), 新村出編著, 岩波書店, 1998年

『ジーニアス英和辞典』(改訂版), 小西友七編集主幹, 大修館書店, 1994年

『大辞林』, 松村明編, 三省堂, 1988年

『日本語大辞典』, 梅棹忠夫・金田一春彦・阪倉篤義・日野原重明監修, 講談社, 1989年

『南日本新聞』(1995年7月30日付)

SOD (1993) : *The New Shorter Oxford English Dictionary* (second edition), ed. by Lesley Brown

COD (1999) : *Concise Oxford English Dictionary* (tenth edition), ed. by Judy Pearsall

COD (2004) : *Concise Oxford English Dictionary* (eleventh edition), ed by Catherine Soanes & Angus Stevenson

ODE (1998) : *The New Oxford Dictionary of English*, ed. by Judy Pearsall

ODE (2003) : *Oxford Dictionary of English* (2nd edition), ed. by Catherine Soanes & Angus Stevenson

【付録】 ODE(2003)に見られる日本語起源の英語

adzuki	小豆	juku	塾	Nikkei index	日経インデックス	skosh	少し
aikido	合気道	kabuki	歌舞伎	ninja	忍者	soba	蕎麦
Akihito	明仁	kainic acid	カイニン酸	ninjutsu	忍術	sogo shosha	総合商社
Akita	秋田	kaizen	改善	Nippon	日本	Soka Gakkai	創価学会
Amaterasu	天照	kakemono	掛物	Nisei	二世	sokaiya	総会屋
anime	アニメ	kaki	柿	Noh	能	soy	醤油
aramé	荒布	Kakiemon	柿右衛門	nori	海苔	sukiyaki	すき焼
Arita	有田	kami	神	nunchaku	ヌンチャク	sumi	墨
banzai	万歳	kamikaze	神風	O-bon	お盆	sumi-e	墨絵
basho	場所	kana	仮名	obi	帯	sumo	相撲
bento	弁当	kanban	看板	Okayama	岡山	surimi	すり身
Bon	盆	kanji	漢字	Okinawa	沖縄	sushi	寿司
bonsai	盆栽	Kanto	関東	origami	折り紙	Suzuki	鈴木
bonze	坊主	karaoke	カラオケ	Osaka	大阪	tabi	足袋
busido	武士道	karate	空手	oshi	押し	tachi	太刀
daikon	大根	karate-chop	空手チョップ	otaku	オタク	tai	鯛
daimyo	大名	karateka	空手家	pachinko	パチンコ	taiko	太鼓
dan	段	karoshi	過労死	raku	楽	tamagotchi	たまごっち
dojo	道場	kata	型	ramen	ラーメン	tamari	溜り
Edo	江戸	katakana	片仮名	reiki	霊気	tanka	短歌
enoki	榎	katana	刀	reishi	レイシ	tansu	筆筒
Esaki	江崎	katsuobushi	鰹節	renga	連歌	tanto	短刀
fugu	河豚	katsura	桂・鬘	rickshaw	力車	tatami	畳
Fuji	富士(林檎)	Kawasaki	川崎	rikishi	力士	tempura	天ぷら
Fuzi, Mount	富士山	Kawasaki disease	川崎病	romaji	ローマ字	Tenno	天皇
Fukuoka	福岡	keaki	樺	ronin	浪人	teppan-yaki	鉄板焼き
futon	蒲団	keiretsu	系列	Roshi	老師	teriyaki	照焼き
gaijin	外人	kendo	剣道	rotenone	ロテノン	tofu	豆腐
geisha	芸者	kimono	着物	ryokan	旅館	Tohoku	東北
gi	着	Kinki	近畿	ryu	流	Tojo	東条
Gifu	岐阜	Kitakyushu	北九州	Ryuky Islands	琉球諸島	tokkin	特金
ginkyo	銀杏	koan	公安	sai	鋸	tokonoma	床の間
go	碁	Kobe	神戸	Sakai	堺	Tokugawa	徳川
gobo	牛蒡	koi	鯉	sake	酒	Tokyo	東京
haiku	俳句	kombu	昆布	samisen	三味線	torii	鳥居
hakama	袴	koto	琴	samurai	侍	toro	とろ
Hamada	浜田	kudzu	葛	-san	～さん	tosa	土佐
Hamamatsu	浜松	Kumamoto	熊本	sansei	三世	tsuba	鍔
happi	法被	kumite	組み手	sasanqua	山茶花	tsubo	坪・壺
hara-kiri	腹切り	Kurosawa	黒澤	sashimi	刺身	tsukemono	漬け物
Hashimoto's disease	橋本病	Kuroshio	黒潮	satori	悟り	tsunami	津波
hiba	檜葉	Kutani	九谷	Satsuma	薩摩	Tsushima	対馬
hibachi	火鉢	Kyoto	京都	satsuma	薩摩	tsutsugamusi disease	ツツガムシ病
hibakusha	被爆者	kyu	級	sayonara	さよなら	tycoon	大君
hinoki	檜	Kyushu	九州	Seikan Tunnel	青函トンネル	udon	うどん
hiragana	平仮名	makizushi	巻き寿司	seiza	正座	ukiyo-e	浮世絵
Hirohito	裕仁	mama-san	ママさん	sen	銭	umami	うま味
Hiroshima	広島	manga	漫画	Sendai	仙台	urushiol	漆+ol
Hokkaido	北海道	matsuri	祭	sensei	先生	Utamaro	歌麿
hokku	発句	Matsuyama	松山	seppuku	切腹	wabi	侘
Hokusai	北斎	medaka	メダカ	shabu-shabu	しゃぶしゃぶ	wakame	ワカメ
honcho	班長	Meiji	明治	shakudo	赤銅	wakizashi	脇差し
Honda	本田	Meiji Tenno	明治天皇	shakuhachi	尺八	wasabi	山葵
Honshu	本州	Mikado	御門	shiatsu	指圧	Yagi antenna	八木アンテナ
hooch	内	Minamata disease	水俣病	shiitake	椎茸	yakitori	焼き鳥
ikebana	生け花	mirin	味醂	Shikoku	四国	yakuza	ヤクザ
Imari	伊万里	Mishima	三島	Shinkansen	新幹線	Yamamoto	山本
inro	印籠	miso	味噌	Shinto	神道	Yamato-e	大和絵
ippon	一本	mizuna	水菜	Shizuoka	静岡	Yayoi	弥生
Ishihara test	石原テスト	moxa	艾	shochu	焼酎	Yen	円
issei	一世	Nagasaki	長崎	shogun	将軍	Yokohama	横浜
Ito	伊藤	Nagoya	名古屋	shoji	障子	yokozuna	横綱
Iwo Jima	硫黄島	Nara	奈良	Shotokan	松濤館	yukata	浴衣
jinricksha	人力車	nashi	梨	Showa	昭和	zaibatsu	財閥
Jomon	縄文	netsuke	根付け	shoyu	醤油	zazen	座禅
judo	柔道	Nichiren	日蓮	shubunkin	朱文金	Zen	禅
judoka	柔道家	nigirizushi	にぎり寿司	shuriken	手裏剣	zori	草履
ju-jitsu	柔術	Niigata	新潟	sika	鹿		

(平成18年5月8日受理)